

第2B分科会 岐阜地区 本巣郡「子どもの発達に関する課題」

質問

幼保小の連携はこれからますます重要となり、大変参考になりました。(可茂地区 中学校)

幼保小の連携の他に中学校との連携は、教頭の授業交流以外乳のようなものがあるかもう少し詳しく教えていただけるとありがたいです。(西濃地区 中学校)

北方町やコミスクの取組の①仕組みや要綱の統一は、学校毎の強みを生かし、より効果のある仕組みへの更新につながると考える。具体的な事例として、どのような点で統一したのか教えていただきたい。(岐阜地区 小学校)

北方学園の取組の中で、義務教育学校ではない小・中学校でも取り組むと効果が高いと思われるものは何かを知りたいです。(東濃地区 中学校)

小中間の授業交流の際、取得免許について詳しく知りたいと思いました。(東濃地区 中学校)

小中間の交換授業を教頭先生が行われた意図をお聞きしたいです。(飛騨地区 小学校)

小中一貫教育を進めると、小学校6年生の最高学年としての活動が薄まることはありませんか。(東濃地区 小学校)

実際に困っている事は、どんな事なのでしょう。(岐阜地区 小学校)

義務教育学校開校を進める上で、学校間や行政、地域など関係機関との連絡調整が必要となると思いますが、事実上誰がイニシアティブをとりながら進められましたでしょうか？(岐阜地区 小学校)

これまでの義務教育学校は、桑原学園や白川学園等、過疎化が進む小規模校区において設立されており、北方町のような大規模校区における義務教育学校の構想は、大いに関心を持ちます。過疎化の問題がなく、他地区からの移住民も多い北方町において、はたして、地域と学校が一体となり、相補的な関係を構築するための柱となる活動は何なのかを知りたいと思いました。(西濃地区 中学校)

いろいろな連携を図っておられる事、とても大切で有効なことだと思います。時間の確保をどのようにすればよいのでしょうか。(岐阜地区 小学校)

意見・感想

連携により、幼保小中間の職員の行き来がスムーズになった事で、互いに学び合える場や時間が生まれた事。(岐阜地区 小学校)

令和5年度より北学園と南学園の義務教育学校が開校されるとのこと、心よりお慶び申し上げます。提言では、義務教育9年間を見通した教育課程の編成にあたり、教頭会や教頭としての役割や明確に示されていました。特に幼保小中へのスムーズな移行に備えた取組や地域との連携した活動など、誰もが安心して学ぶことができる環境づくりは学び点が多くありました。私の勤務地でも児童生徒の減少と今後の教育環境の構築は大きな課題です。今後、北方町での実践を学ぶ機会があると思います。その際はどうぞよろしくお願いいたします。(東濃地区 中学校)

令和5年度4月の北方学園スタートに向け、様々な活動を試みられていることに感動した。学校間の距離が比較的近いとはいえ、教諭による小中の交換授業や教頭による授業などは、物理的な問題も発生したのではないかとと思われる。幼保小中の連携のためには、日程や活動内容などについて、多くの項目の調整が必要であると考えられるが、児童・生徒数が減少傾向にある本校の場合も、喫緊の課題であり、多くのことを学ばせていただいた。(岐阜地区 小学校)

来年度から義務教育学校を開校されるということで、準備が大変だろうと思います。成果や課題をまた、教えていただきたく思いました。(岐阜地区 小学校)

来年度から義務教育学校として開校するために、意識を変えることや小中、幼保小の連携を大切に、子どもたちがスムーズに就学できる工夫を学ばせていただきました。(西濃地区 小学校)

幼保連携では、子どもだけではなく、職員が共に学ぶ機会をつくるのが大切だと感じました。(岐阜地区 小学校)

幼保小連携の大切さの再認識。(西濃地区 小学校)

幼保小中の連携は、本校においても同じ中学校へ3小学校へ進学するため、学校の特色を生かしながら同一歩調で進めていきたい。(東濃地区 小学校)

幼保小中の連携は、地域の特性を活かした良い活動だと思います。(岐阜地区 中学校)

幼保小中の連携として、小中教頭会に幼稚園の主任教諭を交えた教頭会や、小・幼の教諭で共に学び合う生活科部会を行うことで、職員同士の意見交流や、児童生徒の情報共有を定期的に行うことができ、効果的な連携の在り方だと思いました。職員同士のつながりや、児童生徒についてお互いに理解していることが、子どもたちが安心して学校生活を送れることに大きくつながっていると感じました。(美濃地区 小学校)

幼保小中の連携が町をあげて取り組まれていることに、地域の力を感じた。(岐阜地区 中学校)

幼保小中の連携が進んでいることがすばらしいと感じた。(岐阜地区 小学校)

幼保小中にわたって、長いスパンで子どもたちの成長をとらえながら、実践を進めてみえるところが素晴らしいと思いました。(岐阜地区 小学校)

幼保小中12年間を見通して、地域の子どもたちを育てるという視点は大切だと思いました。また、小中や幼小の教員の授業交流も子どもを知る・子どもの育ちを見通すという点でも有効だと思った。(岐阜地区 小学校)

幼保小小中の連携、コミスクの取組(岐阜地区 中学校)

幼保小、小中の連携の必要性をあらためて感じました。幼小の近さを利点に、同じ目線ですすめられていることは、大切なことと感じました。(岐阜地区 小学校)

幼保も含めて町全体で取り組んでみえる中で、教頭が連携を推進するための環境を調整・整備していることがよく分かりました。(東濃地区 中学校)

幼保・小・中学校が一体となって児童生徒を育てる工夫がたくさん見られました。(岐阜地区 中学校)

幼稚園主任との交流は、小学校でも行っているところがあるが、今日的な課題を共有するために関市でも取り入れることができるかもしれないと考えました。(美濃地区 中学校)

幼稚園の先生が生活科部会へ入るなど、幼保小中の連携や系統的な指導を進めてみえるところが大変参考になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

幼稚園・保育園と小学校の連携や小学校・中学校の連携は、CSと絡めながら行なっていく事が求められていると感じました。(東濃地区 中学校)

幼稚園・小学校・中学校の教員が研究会や日常の学校生活の中で、自然と交流していることで、一貫した教育ができているのだと感じました。(岐阜地区 小学校)

幼稚園、小学校の職員が学び合う場があるということがすばらしいと思った。今年度、人手不足で、授業をしていくことで精一杯で、他との連携ができなかった。来年度に向けて、やってみたいと思える発表だった。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

幼稚園、小学校、中学校の連携の在り方として、合同の引き渡し訓練や子どもサミット活動など、豊かな体験を通して、お互いを理解し合う場を大事にしている事が素晴らしいと感じました。(岐阜地区 中学校)

幼小連携のために、授業参観や交流、合同教頭会や生活科部会など、さまざまな取り組みがされていた。小学生への指導を考えると、幼稚園の先生方の園児への接し方は本当に勉強になる。スムーズな移行を図るためにも、とても大切なことだと感じた。(岐阜地区 小学校)

幼小連携、小中連携だけでなく、幼小中をつなぐ行事や取組を企画運営しておられるところがとても参考になりました。(西濃地区 小学校)

幼小中学校が連携することにより、児童生徒の引き継ぎ等の利点が良くわかった。連携を通して分かった課題点はあったのかを聞いてみたい。(岐阜地区 小学校)

幼小中の連携をどのように進めているのかが、具体的な提案で、参考になった。(岐阜地区 中学校)

幼小中の連携は大切であり、これからどんどん強化していく必要があると改めて感じました。ただ、教職員が顔を突き合わせて交流できるような場や組織作りをすることがなかなか難しいのではないかと、どのように推進することがより効果的に行えるのかと考えました。授業を通して学べるような仕組みを作られていて、このような仕組みの必要性を感じました。(美濃地区 小学校)

幼小中の連携はどの学校においても、特に入学生を迎える段階においては重要であると感じる。義務教育学校開校に向けての具体的な取り組み内容は大変参考になった。(西濃地区 小学校)

幼小中の遠隔な接続に向けて、校種間をまたいで職員が指導に出向いたり、児童生徒の生育歴や家庭環境の情報共有を踏まえて指導・援助方針を協議したりするなど、さまざまな工夫がなされていました。幼・小・中の10年以上の長いスパンで先を見通し、子どもたちを育てていこうとする取り組みが素晴らしいと感じました。(東濃地区 中学校)

幼小中の一貫教育については、これからの教育には大きな課題と考えています。そこには、人、物、資金と様々な壁があり、なかなか進めることが難しいことが現状です。それを推し進めている北方町の取組はたいへん興味がありました。学校間の距離に関わる移動や、組織の調整など、他の地域でも導入することができるようにこの提案を参考にさせていただきたいと思いました。(岐阜地区 中学校)

幼小中がつながりあって、一人一人の子どもたちの成長を見守ったり考え合ったりされていることは非常に参考になった。こども園及び幼稚園参観の際には、小学校入学までに育てておきたい力を資料化して示す等して、こ幼小の考えと実践をつないでいきたい。(西濃地区 小学校)

幼小の連携に教頭が大きく関わっていることで、学校体制での連携が可能となると思った。自校でも実践したい。(西濃地区 小学校)

幼小の連携に、教頭が大きな動きをする事で、お互いにとって、より充実した連携になることを学んだ。(岐阜地区 中学校)

問題行動が多様化する中で、9年間を見通して支援することの大切さを学びました。(岐阜地区 中学校)

本市も小規模校が多く、その「利点を生かしながら効果的に教育活動を推進していくには」と考えたとき、小中一貫教育や小中連携の取組が参考になった。実際に授業交流を行うことの効果はもちろんであるが、その実施の困難さをICTを使って補うことはやはり有効であると感じた。ICTを使って実際に授業交流をしたり、教員同士の教科部会交流を通して教材研究を充実させたりする取組を充実させながら、児童生徒の成長を支えるとともに、教職員の資質向上を図っていきたい。(東濃地区 中学校)

本校も中学校との交換授業を行っていますが、教頭は自校の授業を行うことで精一杯という感じです。交換授業に管理職が出ていくことのメリットもありますが、デメリットも少なくないのではないかと感じました。(飛騨地区 小学校)

本校も小中一貫校だが、教頭間の密な連携もさることながら、地域をはじめ様々な連携が大切であることを改めて実感しました。(岐阜地区 小学校)

本校も小中一貫教育を進めていますが、貴校は幼稚園も含め12年間を見通していることに敬服しました。私も是非幼稚園との連携をもっともちたいと思いました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

本校も小中一貫を推進しています。今年度から小中授業交流をおこなっています。いろいろ参考になりました。(岐阜地区 中学校)

本校も再来年度に、地区の小学校と統合し、義務教育学校となります。新しい学校の形は、どんどんと作られていきますが、その中で、どんな教育をし、どんな子どもを育てるかを携わる職員がしっかりと共有することの大切さを感じました。(西濃地区 中学校)

本校は同一敷地内に、幼稚園・小学校・中学校が隣接し、以前から12年教育として様々な取組を行ってきました。運動会や文化祭など行事を一緒に行ったり、小中では教員の交換授業を行ったり、授業研究会や生活部・学習部に分かれての取組や研究を行ったりしています。義務教育学校ではありませんが、それと同じような取組を行い、神坂学校(幼小中をまとめた名称)としてのそれが強みと思って実践してきました。北方町の北方町学園構想推進の実践を聞かせていただいて、同じような取組を行っている学校・地域があることを知り、自分たちの実践の参考になりましたし、目指している方向が決して間違っていないことを確認できました。貴重な実践発表をありがとうございました。(東濃地区 中学校)

北方町立北方小学校は自分の母校です。懐かしく気持ちで視聴させていただきました。次年度から北方町学園が誕生するというので地域が一丸となって組織作りに取り組んでみえることが分かりました。スタートアップカリキュラムの必要性を感じながらもものように対応したらよいかわからないままでいたしましたが、生活科部会に幼稚園の先生が参加され、ご意見をいただくという改革が具体的であり素晴らしいと感じました。地域全体が組織改革に取り組んでみえることが分かり、北方町学園が誕生するわが故郷を誇らしく思いました。ありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

北方町学園構想をもとに義務教育学校を開校することは、とても大変なことだと思います。しかし、この機会をチャンスと捉え、喜多方町の子供を育てるために何ができるかを考え、現在の教育活動を振り返り、教頭会がよりよく改革していくための原動力となっている姿に共感しました。私も今間の前にいる子供のために教頭として何ができるかを考えて実行していきます。ありがとうございました。(飛騨地区 中学校)

北方町学園構想については、とても興味深く感じている。教頭が連携し、児童生徒の学びや支援をどのように繋ぐかを系統立てて示していただけることを期待しています。(岐阜地区 小学校)

北方町学園構想という目的に向かって町全体が一丸となって教育活動をすすめている点が素晴らしいと思いました。(西濃地区 小学校)

北方町学園に向けて、教頭が中心となって動いてみえるところが素晴らしいと思いました。幼保小中で多くのことを連携して行うことは重要で、その中核が教頭であると自覚してみえるので、頭が下がります。(岐阜地区 小学校)

北方町は、北学園が500人、南学園が1000人規模の学校となり、岐阜県では初めて、適正規模の義務教育学校になると思います。その中で小中一貫教育や小中連携、幼保小連携など、小学校、中学校が一体となって取り組まれているのがよく分かりました。児童生徒も、開校に向かう意識が高まるような手立てとして、どんなことが有効か参考にさせていただきたいです。(岐阜地区 中学校)

北方町の特徴や地域性を活かし、来年度より義務教育学校がスタートすることがわかった。小中へのスムーズなつなぎ、教員の交換授業による専門性の高い学びが、保護者や児童生徒の安心感につながることをわかる。コミュニティ・スクールの仕組みを活かしながら、地域とともにある学校がつくられている。とても参考となる取り組みです。(岐阜地区 小学校)

北方町の新しい学校のスタートに向けて、教頭先生が見通しを持ち進められてきた経緯と願いをもって実現を目指して連携して工夫改善を進められてきた努力が伝わってきた。教頭先生がすべきこと大切にすべきことがわかった。新しい学校が順調に夢をもってスタートできることを願っています。(美濃地区 小学校)

北方町の義務教育学校は、かなり大規模なものとなることが分かりました。本校の地域でも、コミュニティ・スクールのスタートとともに、義務教育学校ではないものの今まで以上に小中連携、地域との連携に力点を置こうとしているので、参考になる実践でした。小中だけでなく、幼保との連携も明確にされているところは参考にしたいです。コロナ禍で連携を図る取組が弱くなっているため、再度見直し、より適切な接続となるよう、教頭としての働きかけを行いたいと思います。(東濃地区 小学校)

北方町ならではの小中一貫教育、幼小中連携が12年間のスパンで行われ、児童の安定した成長が見守られている点が素晴らしい。(岐阜地区 小学校)

北方町が義務教育学校になるということを知り、私の町でもいずれはそのような方向になって行くかもしれないという気がしますので、参考になりました。そのために、小中一貫教育をされているということでした。小学校の教頭が中学校に授業に行くなど、積極的な動きが素晴らしいです。幼小においても連携がなされています。小学校の立場として、幼稚園でどのようなことを指導されているのか、児童はどのような実態なのか、というようなこと的交流を行っておくことは大切なことだと感じました。(西濃地区 小学校)

北方学園構想に向けての小中一貫教育幼保小の有効な接続のための、様々な取り組みが参考になりました。(岐阜地区 中学校)

北方学園構想については素晴らしい取り組みだと思います。地域の実態の違いがあるので何ともいえませんが、こんな学校が増えてくるといいと本当に心からいいと思います。(美濃地区 小学校)

北方学園構想についてはこれまでもお話を伺ったことがあり、特に「北方科」には興味があったので、学ばせていただいております。授業を参観させていただいたこともあります。町の教育委員会と作業部会の方々の連携により、カリキュラムや教材も大変工夫されており、学ぶところがたくさんありました。今回、発表をお聞きして、「北方科」以外の取組のことについても教えていただき、学ばせていただきました。小中だけでなく、幼保とも連携を大切にしてみることがよくわかりました。(美濃地区 小学校)

北方学園開校に向けての営みは、小中一貫教育を進める上でのよい参考になりました。(岐阜地区 中学校)

北方学園として、小中連携の取り組みが意図的になされており、素晴らしいと感じました。交換授業など、学園だからこそできる取り組みだと感じました。(岐阜地区 小学校)

北方学園が間もなく開園するにあたり、児童がスムーズ移行できるようきめ細かな配慮をしてみることが分かりました。地域の期待も大きい中で、各校の教頭先生同士の連携や関係諸機関との連携など本当にお疲れ様です。小学校の生活科部会に幼稚園からも参加があるという発表は参考になりました。(岐阜地区 小学校)

北中学校も隣接する場所に小学校、中学校があります。小中の連携としてどのようなことができるのかを今後考えていくきっかけとなりました。児童生徒の情報交流も、もっと盛んにできればさらにより生徒支援ができると思いました。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

保幼小中の子どもの成長・発達を見通した教育の効果や有効性を改めて感じました。(西濃地区 小学校)

閉校と開校という大きな節目を機会として、幼保小中間での連携を図ることや、児童生徒や地域を巻き込んだ取組が充実していることが伝わってきた。(岐阜地区 中学校)

飛騨地区でも同じような課題がある。現任校でも小中一貫の動きがあり、参考になりました。(飛騨地区 小学校)

発表をする機会を得て、義務教育学校開校に向けて、町教頭会の仲間と協力して各種の取組の推進過程をまとめることができました。それを県内の各教頭先生方にお伝えすることができてよかった。成果や課題をもとにこれからも頑張っていきたい。(岐阜地区 小学校)

発表のテーマとはずれるが、義務教育学校への準備の過程が勉強になりました。また、幼保小中の連携という言葉をよく聞くと、仕組みとして幼稚園主任教諭を交えた教頭会の運営や市教研など、かなり進んでいると感じました。幼児期から中学校卒業まで、多くの人が関わりながら、文字通り強い連携ができる仕組みや工夫が勉強になりました。(東濃地区 小学校)

発達段階に応じた適切な指導をするための連携のあり方(西濃地区 小学校)

発達に差がある子供たちの集団をまとめる苦勞、教育を進めるうえでの苦勞がわかりました。現在、発達に障害が疑われる子供が増えていると感じています。本校でも、今回の取り組みを参考にしてみたいと思います。(飛騨地区 小学校)

統合を来年に控え、職員の行き来など、動きが進んでみえることが素晴らしいと思いました。我々も令和6年度の4月に義務教育学校としてスタートします。早速動きを作らねば、と思います。(西濃地区 小学校)

統合のために、ギャップを感じさせないよう細かな点に配慮して擦り合わせる必要があることが改めて実感した。(西濃地区 小学校)

統合に向けて一番大変な時だと思いますが、たくさんの工夫を教えてくださいました。(岐阜地区 小学校)  
途(美濃地区 小学校)

町の特性を活かした取り組みをされていて、勉強になりました。(岐阜地区 小学校)

中学校が四時半に帰ることができることよき、課題がよく分かった。予想できたことではあるなと感じた。課題解決には、いろいろな問題があると感じた。(西濃地区 小学校)

中一ギャップ等の解消のため、小中教諭の交換授業など取り組まれているのを見て、こちらの地域でもそういった取り組みができると、教師も子どもの様子が確認できるし、子どもも小中のつながりを感じることができるので取り入れることができたらと思いました。(美濃地区 小学校)

地域も巻き込んで、北方学園創設に向けて計画的かつ意図的な準備がなされていることがわかりました。(岐阜地区 小学校)

地域の規模を生かし、接続する学校どうしが連携していることは、その子のもつ背景等を把握し、途切れない支援に繋がると感じました。また、自校でも、関係諸機関との積極的関わりとしてどのような場を設けられるのか、さらに考えたいと思います。(飛騨地区 中学校)

地域のよさや強みを生かし、幼稚園から小学校、中学校が連携して学校づくりをしているところが素晴らしいと思いました。(岐阜地区 小学校)

大変勉強になりました。急に学園になるわけではなく、授業や交流を前年度に経てから学園になることがわかりました。幼保小中の連携や生活科部会の実践など、とてもよい取り組みであると感じました。本校も引き渡し訓練の実践を行っていますが、他の実践を参考にさせていただき、できることは積極的に実践していきたいと思います。(岐阜地区 小学校)

生活科の授業研究会に幼稚園の先生も参加して一緒に指導のあり方を勉強していることがよいと思った。小1の壁をなくしていくことにつながっていると思う。(岐阜地区 小学校)

瑞穂市では小中一貫教育はまだ始まっていません。小中学校も互いに離れているため、交換授業も行われていません。しかし、今後はこうした交換授業も始まることで、互いの強みが生かされたある意味「働き方改革」につながると感じました。(岐阜地区 小学校)

新しく義務教育学校となる過程など、具体的によく分かった。本校も今年度で閉校で、来年度吸収合併となる。その参考になりました。(美濃地区 小学校)

新しい試みに挑戦することは、非常に労力を要することだと思いますが、この試みには、未来の義務教育が担う大切な実践だと思います。是非、今後の実践の成果を学びたいと思います。また、幼・保・小の連携についても、大切にされているところも、今後本校でも考えていかなければならない課題であると改めて感じさせていただくことができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

小中連携の具体的な実践を学ぶことができました。ハード面とソフト面の両方から、小中一貫教育の基礎を構築されたところが参考になりました。異年齢集団活動が、幼児や児童にとっても、また中学生にとっても、自己肯定感や思いやりの心を育てるための効果的な手立てとなり得るので、自校においても意図的意識的に展開していきたいと思いました。(岐阜地区 中学校)

小中連携について、とても参考になりました。小中の連携の重要性については、十分理解できていますが、なかなか効果的な取組ができていないのが現状

です。小中の交換授業などを参考に、来年度、新一年生として迎える6年生と中学校の教職員を積極的に関わらせていけるよう考えました。(東濃地区 中学校)

小中連携で乗り入れができるのは中1ギャップの解消にもなり、今日委員にとっても小中の発達段階を学ぶ良い機会であると思います。(西濃地区 中学校)

小中連携・一貫と地域や関係諸機関との連携(東濃地区 小学校)

小中共通の問題点を明確にされていること、小中の総合カリを作成されているなど、小中の指導の一貫が図られているのが参考になりました。(岐阜地区 中学校)

小中間の連携強化において、教頭先生方の役割の大きさが分かった。また、幼保小との連携についても、町としての教育力向上の取り組みが分かった。(岐阜地区 小学校)

小中学校の連携(西濃地区 小学校)

小中学教諭による交換授業は、中1ギャップに対しても、6年生児童の不安解消、心構えに効果的だと、改めて感じます。(岐阜地区 小学校)

小中一貫校の特徴、良さが伝わってきた。小中の交換授業は、互いの良さや取り組みを理解するにも良いと思う。(岐阜地区 小学校)

小中一貫校が開校されることで、子どもの発達に必要な課題が数多くあるが、常に子どもや職員の立場に立った考えで取り組まれていることが素晴らしいと思った。授業の交換や、各種行事の統一化、コミスクの仕組みや要綱の統一等は、教頭が中心になって進めていかなければ上手く進まない。小中一貫校でなくとも、北方町のような取組は子どもの発達を考えれば必要なことであると感じた。(美濃地区 小学校)

小中一貫教育は、授業のやりくり等、出張時などどうされているのかと..。(東濃地区 小学校)

小中一貫教育の取組について、大変、興味深かった。参考になった。(岐阜地区 中学校)

小中一貫教育のメリットと、幼保連携の重要性(岐阜地区 小学校)

小中一貫教育として、九年間の系統的な指導を組織的に行うことができることを学ばせていただきました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

小中一貫教育がスタートするため、交換授業を行いより専門的な教科の学びの効果が児童の姿として表れている実践、教員間の情報共有、幼保小との連携の取組等が令和5年4月の開校にスムーズに移行できることにつながったと思います。開校後の児童生徒や教員、保護者、地域の皆様のご意見をお聞きしたいと思います。(可茂地区 小学校)

小中一貫教育、小中連携は、近い将来本校でもと思い視聴した。現在、中学校教諭が1名、中学校へのステップという意味もあり6年生の体育を行っている。3年続けて行われているが、6年生にとってもプラスになっている。北方町の取組はとても参考になった。また、園児と1年生との交流も現在なかなか思うようにできていないが、北方町と同じ取り組みをしているので続けていきたい。幼稚園の主任教諭が教頭会に参加するというのは、とてもいいなと思った。毎回ではなくてもできるといいと思った。(飛騨地区 小学校)

小中一貫の意義を共有することの意味について、参考になりました。(岐阜地区 小学校)

小中一貫、連携において相乗り授業は本校も苦慮しているところです。教頭先生が行うことによって、教科の専門性だけでなく学園構想の理念に触れて児童生徒を前向きにさせようとしている活動は参考になりました。また、小中連携だけでなく、幼保との繋がりまでコーディネートされる活動には驚かされました。(岐阜地区 中学校)

小中一貫、幼保小中連携の実践を紹介されて、今後、将来的な羽島市の先行事例として学びの多い発表であった。(岐阜地区 中学校)

小中の連携はとても大切なことであると思っておりますが、地域の強みを生かし、小中の連携をよりよいものにするだけでなく、保育園・幼稚園も含めた組織化や実践が大変素晴らしいと思えました。自分自身も、自校の校区、市の良さや強みをしっかり分析し、地域連携も大切にして取り組んでいきたいと思えます。(東濃地区 中学校)

小中の先生が乗り入れ授業を行ったり、幼小も連携や交流をしていて12年間を見通した教育を展開する学園構想が素晴らしいと思えました。(飛騨地区 中学校)

小中の職員が多学年に渡って指導を行うことは、生活面学習面において大変意義のあることだと考えます。実際の動きや調整が円滑にいくとなおよと感じます。(東濃地区 小学校)

小中の9年間、さらに幼稚園、保育園を見通した教育活動を展開し、そのための連携の在り方や地域との連携の在り方など、大変な労力だと思うが、教頭として、どうかかわっていくのかを学ばせていただいた。(美濃地区 小学校)

小中、保幼小のみならず、保幼小中のつながりを考えて実践されているところに感銘を受けました。大変な取組をされているなと思えます。(西濃地区 小学校)

小学校教諭と中学校教員の相互の関わりが大変羨ましく思いました。中学生の様子を見て小学生を育て小学生の様子を見て中学生を育てるというようなことが本校も行われていけるといいかなと考えた発表でした。ありがとうございました(美濃地区 中学校)

小学校だけでなく、中学校、さらに幼稚園も含めて、長い期間を見通して指導することの大切さを感じました。(岐阜地区 小学校)

自治区取組です。(岐阜地区 小学校)

自校だけの支援では不十分さを感じていました。関係機関が「チーム」を自覚し、情報共有だけでなく、支援の共有ができることはとても有意義だと学びました。(西濃地区 小学校)

児童生徒が安心して学ぶためには、自分自身を大切な存在であること、認められた存在であることを自覚することが重要である。そのために、幼小中の教員が連携し、児童生徒の抱える背景を理解し指導に当たる体制の構築が必要であると感じた。(西濃地区 小学校)

私は、以前白川郷学園に勤務していたことや、また昨年度より岐阜大学教職大学院の学修の中で北方学園と共に学んだこともあり、興味深く拝見しました。「9年間を貫く(見通す)」というのは簡単ではありませんが、着実に歩んでみえることがよく分かりました。(飛騨地区 中学校)

私の市でも、少子化に伴って近い将来小中一貫校になる学校が出てくるであろうと考えられます。その際の準備の仕方、子どもの不安な気持ちに寄り添ったきめ細かい配慮がとても参考になりました。また、幼稚園や保育園の主任や先生が、教頭会に参加したり生活科部会に参加したりして、連携を図ることができているのはすごいと思えました。幼保小中の連携の大切さは周知の事実ですので、私も校区の保育園や幼稚園とどのような連携ができるのか、もう一度見直します。ありがとうございました。(美濃地区 小学校)

施設一体型小中一貫学校の開始にあたり、さまざまな生みの苦しみがありかと推察します。子供の心の安定を図ることに尽力されてみえることと思えます。本当にお疲れ様です。(岐阜地区 小学校)

子どもの発達に関しては、幼保小中の連携が大切であると感じている。特に、特性のある子や、それ故に困り感を抱える子については、早期からの切れ目ない支援が欠かせない。大変興味のあるご提案であった。(西濃地区 中学校)

子どもの学びは連続していることから、常に9年間を見通して指導していくという意識を持ち続けることの大切さを感じている。また、子どもの主体的な学びに繋がるように、組織的に取り組むことができるようにしなければと実感している。(岐阜地区 小学校)

子どもサミットにより、一貫の楽しさを味わえること。(岐阜地区 小学校)

今後小中のつながりがますます大切になりその参考となった。(西濃地区 小学校)



合同職員室での活気ある先生方のやりとりが目には浮かぶようでした。(東濃地区 中学校)

現任校は小学校であるが、中学校から異動してくる教員もかなりいる。その中で感じるのは、教科担任制を基本とする中学校で培われた小学校とは違う文化を感じる。つまり、小学校と中学校が一緒になるということは、異文化の衝突が起きるわけで、それをうまく解消していくことが肝要になるだろうと考える。そういう意味では、小中の教頭先生が、それぞれの学校の授業に入るという方法は、とても有効だろうと感じた。特に、校内で影響力が大きい教頭が互いの文化を知ること、最初の衝撃を少しでも緩和できるのではないかなと思う。とても勉強になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

郡上市でも統廃合が進んで(進みかけて)おり、北方学園のように3小1中がどのように進んでいくのか。また、教頭がどのように中心になっていくのかが参考になりました。ありがとうございました。(美濃地区 中学校)

具体的な事例をもとにした園小中の連携の在り方を教えていただいた。教員間の交流はもちろん、園児児童生徒の交流が大きな成果をもたらすことが分かった。(東濃地区 小学校)

教頭先生方が児童生徒の育成のために、互いに協力し合いながら取り組んでいることがよく分かりました。小中の先生方が兼務し、互いの授業を行うことはとてもいいことですね。児童の実態が理解でき、互いに良さと課題を理解し合いながら、子ども達の育成のために取り組みを考えることができます。地域の取組を交えながら、接続期の子どもをととても大切にしていると感じました。地域を交えての活動は、ルールの統一を図ったり、手順を確認し合ったりすることは、とても大切なことだと思います。地域で同じ目標を持ち、子どもをみんなで育てている様子がよくわかりました。教頭先生方の活動に頭が下がります。とても勉強になりました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

教師が小学校にも中学校にも授業に行ったり、学年を超えた子どもたち同士の関わりの機会を設けたり、一人一人についての情報の共有が丁寧になされていたりすることから、子どもたちの不安を取り除くために、様々な工夫をしてみえると思いました。地域ぐるみで取り組む活動もありました。自分自身も「地域あつての学校」と感じる事が多いです。動画を拝聴し、自校についても改めて振り返ることができました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

義務教育学校開校にむけての具体的な取り組み内容が分かった。子どもたちだけでなく、教職員や保護者、地域の皆さんが不安に感じる事の無いよう、連携しながら段階的に移行していく必要があることの重要性が分かった。(可茂地区 小学校)

義務教育学校への移行を前提に、様々な取組をされていたことが、令和5年度からの学園での取組に有効に働くものになると感じました。また、幼小の連携を図ることについても、町立の園であることで深い連携がとられていることが、本巣市にとっても参考となる事例でした。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

義務教育学校への移行は各地で行われており、飛騨地区でも白川・荘川・朝日と進んでいます。小学校と中学校の連携(行き来)だけでも大変ですが、地域とのつながりを改めて整えることも必要になることがわかりました。(飛騨地区 中学校)

義務教育学校への移行に伴う仕組みづくり等には、大変なご苦労があることと拝察します。そんななか、小中9年間の接続に留まらず、教頭会として幼稚園とも連携を強め、町として子どもたちを大切に育てていこうとする強い姿勢を感じました。(岐阜地区 小学校)

義務教育学校の設立から運営始動まで、教頭先生は大変だよと聞いてはいたが、具体的にどのようなことをされているのかとても関心が高まった。このことが、自校にも活かせると思う。(東濃地区 小学校)

義務教育学校の実践の概要や可能性を学ぶことができた。(西濃地区 小学校)

義務教育学校の開校前から学園構想を見据えて取り組んでいることは、児童生徒が義務教育9年間を不安なく、さらに前向きな気持ちで生活させたいと願う、すべての学校の思いであることから他の市町村でも参考になる実践だと感じた。(岐阜地区 小学校)

義務教育学校の開校のためには、小中の連携が必須だろうし両者にそのメリットがあるため、積極的な小中の交流が生まれることが分かった。本校では義務教育学校開校の予定はないが、その気になれば中1ギャップと言われるような不安感を取り除くこともできるだろうし、各家庭が抱えている困難さもよりよく理解した上で

対応することができると思った。

新しいことを始めるためには何かを削る必要があり、職員の負担が長期にわたって大きくなることは避けなければならない。そのための一時的な負担増については、その先のメリットを説明して理解を得る必要があるだろう。

新しいことを始める前に、現在の組織や仕組みがきちんと機能しているか見直す必要もありそうだった。見直しを図る良いきっかけになったし、新しいことを始めるきっかけにもなった。(東濃地区 中学校)

義務教育学校の開校に向けた、綿密な取り組みが「児童の発達を大切にすること(一人の子どもの発達を一本の軸で貫く)」であるところが、素晴らしいと感じました。(西濃地区 小学校)

義務教育学校の開校にあたり、毎日大変な中、ご提案いただき、ありがとうございました。小中の教員が9年間で子どもを育てる意識が持てると、授業力がアップし、子どもたちも一層力が伸びますね。勉強になりました。(東濃地区 小学校)

義務教育学校に向け、幼保小、小中の連携を大切にされていることや、地域ぐるみで育てるために、地域との連携を大切にされていることがよくわかりました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

義務教育学校だけでなく、日ごろから幼小中の連携を行っていきなかでよさや課題を考えていく必要があると考えた。(東濃地区 小学校)

関市中学校教頭会様

「困り感のある児童生徒」は増加の一途をたどっています。その困り感をいち早く察知し、その子に適した指導を丁寧に行っていくことが不可欠であると日々感じています。そのままに放置されれば、不応におこし誰も望まない問題へと発展していくケースもあります。その一助となるのが、幼保小中の連携であるという実践は大変参考となるものでした。関係諸機関とつなぐことも大切ですが、小中の職員が専門的な知識を深め、経験を積み「困っている子」を見逃さないよう努めていきたいです。(岐阜地区 小学校)

関係諸機関との連携の必要性を痛感した。「つなぐ」役割を実践していきたい。(美濃地区 中学校)

学校種間の連携や、コミスク等の組織を活用して情報共有しながら指導を進めることの大切さを痛感しました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

学校間と地域との連携でどうコーディネートしていくかが課題だと感じました。(岐阜地区 小学校)

学校運営協議会の規約が必要であるとの考えに至っていなかった。組織を改変して活動が広がるよう考えたいと刺激になった。(東濃地区 小学校)

学校の統合、再編にあたって、子供や保護者の不安や期待をどれだけイメージできるかが大切であり、そのための周知の準備の重要性を学びました。(岐阜地区 小学校)

学校の再編を機会に、より子どもの安心・安全な学習環境に配慮したり、幼小中の連携や9年間を見通した学習内容の編成、地域ぐるみの教育活動等に尽力されている事がわかりました。新しく創り上げるのは大変ですが、とても大切なことだと思いました。(西濃地区 小学校)

学園構想推進に向けた、子どもの連続した学びの場をつなぐ、職員間をつなぐ、関係機関とつなぐ取組が大変参考になりました。特に、町合同の引き渡し訓練、子どもサミットの取組等、学校の枠を超えて町としての方向を一つにまとめていく取組は、ご苦労も大きいと思いますが、地域で子供を育てる、支えるまた地域の未来につながる重要な取組であると感じました。(美濃地区 小学校)

学園構想推進ということで、今までの連携とは違い、一歩進んだ連携組織体制づくりを進められておられると感じました。立地的に交流がしやすいとはいえ、その連携には単一校勤務にはない負担感もあることとされます。そこを教頭が先頭を切って実践し推し進めている先生方に頭が下がります。また、合同職員室はその力ギとなる取組みだと思えます。そこから今後もよりよい小中一貫教育の充実につながっていくことと思えました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

学園構想を念頭に置いた小中連携(飛騨地区 中学校)

学園構想に向けて、計画的に連携が図られているのは、最終的なゴールが職員間で共有できているからだと感じました。(美濃地区 中学校)

学園構想が計画的になされ、統合する前から様々な連携が図られていて、スムーズな移行ができると感じました。また、幼稚園から中学校までの連携の仕方が大変勉強になった。(西濃地区 小学校)

学園化して小学校、中学校のつながりをなめらかにしたり、幼稚園との関係を高めたりすることを通して、子どもの成長を支援していくことで、いまよりも効果を上げていく方法が、少しずつ各地で広がっています。どんなことを具体的にいき、どんな成果や課題が出てくるかがよく分かりました。本校も中学校や幼稚園と連携をとりやすい環境にあるので、今回の提案を参考にさせていただきながら、効果的な方法を考え、子どもがより力を伸ばしていけるようにしたいと思いました。(岐阜地区 小学校)

各地域の取り組みとして、本県の小中連携の学園づくりや下呂市の下校時刻を繰り上げの統一など、最先端の教育の現状と課題をすることができました。今回の研修動画を通して、それぞれの課題へ取り組む根拠がわかり、具体的にどのように取り組まれたか、成果と課題が分かりやすく、今後の動きの学びができました。(美濃地区 中学校)

我が勤務校でも、地の利を生かした幼保小の連携を図っていますが、北方町での授業参観や懇談会の機会を生かした指導法の学び合いは大変参考になります。また、我が勤務校でも保小合同引き渡し訓練を実施していますが、北方町では更に中学校も加えて幼保小中で合同実施されており、より現実的な想定で取り組まれていると思いました。総じて、幼保小中の12年のスパンで子どもの育成を図っていらっしゃる点を大いに学びたいと思いました。(美濃地区 小学校)

引き渡し訓練のルール、やり方の統一、地域におけるゴミ拾い運動などとても参考になる活動実践がありました。生かしていけそうな実践が多数あって勉強になりました。(可茂地区 中学校)

一人一人を大切にしている指導を、職員に改めて考えさせたいと感じた(可茂地区 中学校)

一人の子供が育つということは、繋がっているということです。先生方が共通理解したり、やり方をそろえたりすることで、子供は安心して大きくなれます。ですから、とてもすてきな実践だと思います。

(岐阜地区 小学校)

一貫した支援を大切にしているところ、行動上の課題が出てくる前に予防的な実践をしているところが素晴らしいと思いました。行動上の課題が出てきてからではなく、手立てを打った上での取組があるからこそ、実の学校生活における困難さがわかり、どのような手立てが有効で、どのような手立てが有効でなかったかも明らかになると感じました。(東濃地区 小学校)

まず、衝撃を受けたのが、教頭が小学校、中学校に行き、率先して授業を行なっているということでした。なかなか勇気のいることで、自信がなければできないことですし、時間割編成上でも苦労があったことだとも思います。

また、幼保小中の連携についても本校の課題としている内容の一つで、大きなヒントをいただいた気がします。このような素晴らしい実践をありがとうございました。是非参考にさせていただきます。(東濃地区 小学校)

どのように小中一貫教育をスタートさせようとしてみえるのかが分かりました。(岐阜地区 中学校)

コンパクトにまとまった立地の北方町というお話でしたが、海津市は人口流出が激しくなり少子化が進んでいます。本校も来年度をもって5校統合となるうちの1校です。海津市は評議委員会ですが、いずれコミュニティ・スクールへの移行や義務教育学校の可能性あると考え興味をもちました。どのような形になるにせよ、教頭同士で普段から連携をしていくことが大切なのだと感じました。また、月のラストの日に地域の人との活動を位置付けている「子どもサミット活動」がとても良いと感じました。一緒に活動する中でともに感じる重質感があってこそ、地域との新たな協力関係ができてくるのだと感じました。お忙しい中、ご提案いただきありがとうございました。(西濃地区 小学校)

コミスクで行われていることを本校では小中連携して学校間で行っています。コミスクとして取り組むのもアリだなと思いました。(飛騨地区 小学校)

9年間の学習の系統性については、本校の中学校区においても大きな課題であり、中1ギャップの回避も含めて引き続き協議が必要だと感じた。

教職員の病休などによって中学からの応援を一時期依頼した。接続する学校間での交換授業などは、とても有効であり、学校間の立地条件や兼務のありかたなどによっては、制約が大きいですが、積極的な運用ができるようになると良いと感じた。

中学校区における学校運協議会は理想であり、より実効性の高い組織となると感じた。核となるリーダー選出が困難であり難しさを感じるが、学校評議員会と変わらない状況を打破していく必要がある。(美濃地区 小学校)

2つの義務教育学校の設立に向けて、学校だけでなく、地域との連携も不可欠だと感じた。また、9年間の学びを支えるための幼保との連携も必要だと感じた。

開校後、どのような教育がされていくのか、とても興味があります。(西濃地区 小学校)

12年間を見通し、子どもを育てようとしてされている点に感銘を受けました。(岐阜地区 中学校)

・幼保小との連携として教員同士の交流はあるが、コロナの関係で児童と園児が関わる時間がさほど取れなくなった。

・教頭会への幼稚園主任参加、一つの方法であると感じた。(東濃地区 小学校)

「誰もが安心して学び合える学校」。素敵なお言葉だと思いました。やはり安心・安全がベースとなることで、子どもたちは生き生きと頑張れますし、困難なことにも挑戦しようとしています。また、困り感をもつ児童生徒も、それに応じた支援をしていくことで、自分自身に適応力を身に付けていきます。「学校が楽しい」と誰もが思える学校生活を作り出すために、12年間を見通すことの大切さ、幼保小中の教員みんなで子どもを育てることの大切さを改めて感じました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)